



白川改修・立野ダム建設促進期成会への働きかけ



熊本市への要請書提出 2017.5.12

白川流域4市町村（熊本市、菊陽町、大津町、南阿蘇村）でつくる白川改修・立野ダム建設促進期成会は、毎年総会を開き、国土交通省に対し立野ダム建設促進を働き掛けています。昨年までは同期成会総会で「立野ダム促進」を決議した後に抗議文を提出していたのですが、今年は総会の期日が事前に分かったため、5月12日に4市町村に要請書を提出しました。熊本市は都市計画局長が、菊陽町と大津町は総務部長が、南阿蘇村は吉良村長が対応し、要請事項を丁寧に聞いていただきました。要請事項は以下3点です。

- ① 5月16日開催の白川改修・立野ダム建設促進期成会総会の傍聴を認めること。
- ② 白川流域の市町村ごと、熊本市にあつては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催することを、国土交通省に要請すること。
- ③ 上記説明会が開催され、国が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダム建設事業を一時中断し、白川の河川改修や熊本地震の復興を促進するよう、国土交通省に要請すること。

事前の地元自治体との話では、傍聴は当然可能と感じていたのですが、実際に傍聴できるようになるまでには紆余曲折がありました。国交省の意向があつたのではないかと考えられます。結果的には5月16日に開かれた総会の傍聴は認められ、各首長さんからも国土交通省に対し住民への丁寧な説明責任を求める発言も数多くいただきました。

結局総会では今年も「立野ダム本体の早期着工」などの活動方針が了承されましたが、活動方針は国がつくったものとしか考えられません。閉会後の国交省と地元自治体との意見交換会は非公式で行われました。この国では、国のやることに地元が異議を唱えることは非常に困難なようです。



南阿蘇村への要請書提出 2017.5.12

●立野ダムをめぐる動き 2017年4月～2017年5月

2016年 4月 9日 南阿蘇村と高森町で立野ダム問題のビラ配布活動（約1500枚配布）

- 4月16日 熊本地震1周年シンポ「立野峡谷と立野ダム予定地はどうなっているのか？」
- 4月19日 阿蘇砂防事業が国直轄に
- 5月12日 「白川改修・立野ダム建設促進協議会に関する要請書」を流域自治体に提出
- 5月14日 健康祭り（江津湖）で熊本地震・立野峡谷写真パネル展
- 5月16日 白川改修・立野ダム建設促進協議会を傍聴
- 5月21日 下通り（紅蘭亭前）で熊本地震・立野峡谷写真パネル展
- 5月24日 「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」に関する公開質問状（公開質問状その5）を国交省立野ダム工事事務所に提出

●下通りで熊本地震・立野峡谷写真パネル展を開催！



下通りでパネル展 2017.5.21

5月21日、熊本地震・立野峡谷写真パネル展を下通りアーケードで開きました。会員が撮影した熊本地震前後の立野峡谷の写真パネルなど50枚ほどを展示しました。

多くの方が立ち止まり、一様に驚かれていました。立野峡谷に巨大ダムがつけられようとしていることも、立野峡谷の今の状態も、知っている人は全くと言ってよいほどいませんでした。今後も写真展やミニ集会を、多くの場所で開きたいと思います。

●熊本日日新聞 取材前線(2017年6月3日)

立野ダムをめぐる違和感

上田良志（社会部）

「熊本地震後の立野ダム事業の安全性について、流域住民に丁寧に説明してほしい」

5月12日、熊本市で開かれた国土交通省と白川流域首長との意見交換会。大西一史・熊本市長は冒頭、こう訴えたという。他の首長からも、ダムに不安を持つ住民への現場説明会を求める声が上がったと聞く。

ダムの建設促進期成会総会に続いて開かれたこの意見交換会は、非公開だった。前年度まで総会と意見交換会は一体で公開されていたが、本年度は総会部分のみを公開した。事務局の熊本市は「ざくばらんな意見を交わせる場に改めた」と非公開の理由を説明したが、すんなりと受け入れられなかった。

本年度の総会は、事前から傍聴をめぐる、ダムに反対する住民団体と市の間で小競り合いが繰り広げられていた。市は、住民団体の傍聴希望を「規定がない」といったん断ったが、最終的に事務局判断で受け入れた。

取材前線

情報公開に前向きな姿勢を示したわけだが、住民団体は意見交換会が非公開だったことに「国の意向を忖度したのか」と表情を曇らせた。市は「傍聴の件と非公開は関係ない」としているが、わだかまりは残る。

立野ダムを取材していると、このよつな違和感に遭遇することが多い。住民団体が5度提出した公開質問書に同省が1度も回答していないこともそうだ。立野ダムをめぐるのは熊本地震後、賛成派と反対派の対立の構図とは別に、安全性への不安や「復興を優先してほしい」など多様な意見が出てきた。同省は「ホームページなどで回答している」と繰り返すが、誠実さに欠けてはいないか。

建設を推進する立場の流域首長も、住民理解を深める工夫を求めている。住民の疑問と同省の姿勢を丁寧に取材し、報道していきたい。

熊本日日新聞

2017.6.3

●白川河川改修現地視察



龍田陳内4丁目にて 2017.3.28

3月28日、「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」の白川河川改修現地視察に同行しました。まず、5年前の九州北部豪雨で大きな浸水被害のあった熊本市の龍田陳内4丁目。ここは大きく蛇行した白川をショートカットする改修が進み、白川はすでに新しい河道を流れていました。熊本県の資料によると、ここでは改修前には毎秒1910トンしかなかった流下能力が、毎秒3415トンも流れるようになりました（河口から19.3km地点）。改修で毎秒1505トンも余計に洪水を流すことができるようになったのです。ちなみに立野ダムの洪水調節能力

は、ダムが計画通り機能したとしても毎秒200トンです。

次の三協橋でも左岸側高台（上南部1丁目）の川幅が20mほど広がり、右岸側（龍田1丁目）の川幅も広がっていました。大津町の日暮橋では川底に堆積した土砂の撤去が進み、迫玉岡堰下流では護岸工事が進んでいました。

河川改修を進めれば、立野ダムをつくる必要がないことが改めて理解できました。熊本県河川課の皆様、丁寧なご説明ありがとうございました。県議の皆様、お世話になりました。

●熊本地震1周年シンポジウム「立野峡谷と立野ダム予定地はどうなっているのか」



熊本市パレアにて 2017.4.16

熊本地震から1年が過ぎた4月16日、シンポジウム「立野峡谷と立野ダム予定地はどうなっているのか」を熊本市のパレアで開催しました。約100名の参加で、会場はほぼ満席となりました。

まず事務局より熊本地震後の立野ダム予定地周辺の状況を説明。ダム水没予定地周辺の大半（特に右岸の立野溶岩の台地側）が崩れ、下まで降りていく道路がつくれないので、土砂崩壊対策工事もできなければ、崩れた土砂の搬出もできない状況であること等を、現地を撮影した映像をもとに解説しました。

次に、火山岩岩石学が専門で「阿蘇および熊本地域の更新世以降の火山岩に関する地球化学的研究」を進められているの新村太郎・熊本学園大学准教授が、地震発生のメカニズムや九州地域の地震の特徴などについて解説しました。

議論の中で「断層が地表に現れない場合も多い」とありました。立野は東西方向の断層が集中している場所でもあり、国交省の「地表に現れた断層はダム本体から500m離れているから大丈夫」という主張は妥当でないと感じました。

当会は、国交省あてに今回のシンポジウムへの出席とダム計画説明を求める要請書を3月6日に提出しましたが、同省は「業務の都合により欠席する」と回答しました。送られてきた文書は、日付も担当者名も書いていない、極めて無責任な文書で、封筒に消印すらありませんでした。なぜ堂々と住民に説明できないのでしょうか。それは、国交省が立野ダム建設に自信がないからに他なりません。

公開質問状に回答できない国交省



国交省に5通目の公開質問状提出 2017.5.24

熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が昨年7月に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、国交省の主張をそのまま了承し、同省はダム本体工事に着手しようとしています。ところが、国交省立野ダム工事事務所はこれまで、住民が提出した4通の公開質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していません。

そこで5月24日、住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関し下記7点についての公開質問状を提出しました。

- ①大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の土砂崩壊対策工事は可能なのか
- ②大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地の崩壊土砂の搬出は可能なのか
- ③立野ダム放流孔（高さ5m×幅5m）は流木の枝葉や根でふさがるとはならないのか
- ④年間の立野ダムの維持管理費をどのように計画しているのか
- ⑤黒川遊水地群の洪水調節能力は毎秒何m³なのか
- ⑥河川整備基本方針において立野ダムの洪水調節能力は毎秒何m³なのか
- ⑦北向谷原始林側のダム本体工事用のケーブルクレーン基礎をどのように計画しているのか

国交省は、「住民からの疑問についてはホームページを見るように」と繰り返していますが、同省のホームページは住民が出した質問に対して肝心の点には答えておらず、質問と回答が全くかみ合っていません。回答できないのは、きちんと回答すれば立野ダムは造れなくなるからに他なりません。これまで提出し、国交省より何ら回答を得ていない5通の公開質問状は下記の通りです。全てを当会ホームページに掲載しています。

- ・立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状 平成25年10月1日
- ・立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する 公開質問状その2 平成25年11月15日
- ・立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成27年11月26日
- ・立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状 平成28年12月5日
- ・「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状 平成29年5月24日

編集後記 熊本市のパレアで開かれた国交省による「白川治水パネル展」を見てきました。大半が九州北部豪雨や白川の河川改修などのパネルで、立野ダム事業のパネルは一番奥に目立たぬように2枚だけありました。それを見てびっくり。「第一人者が立野ダム建設に問題ないことを確認！」等としか書いてありません。その第一人者による技術委員会も、たった3回の国交省の説明を、国交省が選んだ委員が認めただけのものです。「立野ダムでどのようにして洪水を防ぐのか」等のパネルはなぜないのでしょうか。公共事業は、税金による住民の「買い物」です。普通、商品のチラシには、商品の機能や値段は必ず書いてあるのに、ここでは値段（事業費）も機能も全く書いてありません。あなたは高い買い物をする時に、「第一人者が問題ないと言っている」だけで判断しますか？（N.O.）